



さとやま

4月に見られるいきもの



写真は、近年の4月上旬頃の小草池の様子です。今年、3月後半は暖かい日が多く、桜の便りも少し早めにきかれました。里でも一気に春の植物たちが花をつけ、例年より春が早く進みそうです。

里のあちこちでその環境にあったスミレたちが花をつけます。その中でも、タチツボスミレやニオイタチツボスミレは、広い範囲で見ることができます。アケビやミツバアケビも、でよく見られる花です。

中央広場からトンボの里へ向かう道では、釣り鐘型のウスノキの可憐な花を見つけることができます。トンボの里に1株だけあるシュンラン、2年程花をつけませんでしたでしたが、今春は期待できそうです。

万灯山山頂付近では、足元にはフデリンドウの花が咲き、4月上旬には葉が出るより前に花が咲くミツバツツジが満開になります。そんな万灯山へ向かう道では、運が良ければ蝶と間違えるほどきれいな昼行性の蛾、イカリモンガの姿を見つけることができます。こんな春の生き物を探して、里を散策してみませんか。



タチツボスミレ



ニオイタチツボスミレ



アケビ



ミツバアケビ



ウスノキ



シュンラン



ミツバツツジ



イカリモンガ

里の生き物紹介

フデリンドウ

4月の万灯山山頂では、フデリンドウのコバルトブルーの可愛い花が点々と咲きます。その様子から、「妖精の足跡」とも呼ばれます。



フデリンドウは、リンドウ科に分類される越年草（秋に発芽し、翌年に枯れる植物）です。日当たりのよい、やや乾いた草原を好みます。

花期は4～5月で、花弁は筒状で5裂していますが、裂間に小さな副片があるため、10裂に見えます。よく晴れた日は花を開き、夜や雨・曇天は花を閉じます。閉じた花の様子が筆のように見えることから名が付けました。

よく似た花にハルリンドウがありますが、フデリンドウが1つの茎に複数の花をつけるのに対して、ハルリンドウは1つの茎に1つだけ花をつけることや、茎についている葉が小さく、根元から生える根生葉があることで、見分けることができます。フデリンドウより湿った場所を好みます。



花は両性花ですが、中を見ると雄しべと雌しべの状態が、花によって違っているのが分かります。開花したばかりのフデリンドウの雄しべは、雌しべの周りにつっついていて、雌しべは見えません。その後雌しべが伸びてきます。この時期の花の状態を「雄性期」といい、雄しべは成熟して葯から花粉が出ていますが、雌しべは機能していません。雄しべの花粉がなくなると、雌しべから離れ枯れてしまい、雌しべの柱頭が2つに割れてきます。この状態を「雌性期」といい、雌しべが機能し受粉することができます。このしくみのため、同じ花の花粉による「自家受粉」を防ぐことができます。



5月頃、花が終わると閉じた状態で枯れ、その中にはたくさんの種子ができます。晴れているときは写真のように先端が閉じていますが、雨が降ると開きます。種子は非常に小さいため、雨のしずくと一緒に飛び散ったり流れたりして散布されます。

万灯山では、8月14日に「鍵万燈」という火祭りが行われます。山頂にツボラと呼ばれる柴の山を並べて点火します。そのため、ツボラが並ぶ場所や山頂は事前に草刈され、ツボラ付近は黒こげ状態になります。

そこに生えている植物は、毎年地上部分が刈られたり焼かれたりし、人工的な草原が維持されます。フデリンドウは、夏の暑い時期を種子の状態で過ごすため、ダメージを受けることはありません。



種子は、秋が深まると発芽し越冬します。刈り取った草や木の枝が柴として燃やされたことで、日当たりが確保されて成長し、12月にはすでに小さなつぼみができています。

3月、気温が上がってくると周囲の植物が成長する前に、つぼみを膨らませ、開花に備えます。



このように、万灯山のフデリンドウは「鍵万燈」の行事によって、生育環境が維持されています。2019年、2020年は天候やコロナのため、2年連続で草刈はされましたが、火祭りは中止となりました。刈り取られた草が覆いかぶさる状態になるため、環境の変化がちょっと心配です。今年は行事が行われるとよいですね。

4月の行事予定

3日(土)	春のタケノコ掘りⅠ ※注1	30名	9:30~11:30	当園職員
4日(日)	万灯山へ妖精の足跡を探しに行こう	20名	9:30~15:00	高須 桂子
11日(日)	春のタケノコ掘りⅡ ※注1	30名	9:30~11:30	当園職員

※注1~春のタケノコ掘りⅠとⅡは、両日への参加申込はできません。

5月の行事予定

23日(日)	棚田で稲作しようⅠ ※注2【予備日:5/30】	30名	9:30~11:30	当園職員
--------	-------------------------	-----	------------	------

※注2~棚田で稲作しようⅠ~Ⅲの講座は、原則3回の講座のため、少なくとも2回は受講できる方に限り「お米」をお渡しできます。

- ◆参加受付は、各講座3週間前の午前8時30分から先着順で来園、または電話にて受付します。また、お申込みは本人、もしくはそのご家族までとします。
- ◆参加申込者は傷害保険に加入のため、小学生以上の方とします。なお、小さいお子さまをお連れいただいても構いませんが「見学扱い」とし、傷害保険の加入はありません。
- ◆天候や少数(6名以下/1講座)、コロナ禍などにより「講座の中止・延期」、または「受講内容の変更」する場合があります。
- ◆原則、参加費は無料ですが材料費などは実費を申し受けます。
- ◆詳細な講座の内容などは、直接ネイチャーセンターにご確認ください。

編集後記



当園は、皆さんに懐かしさを感じて頂く「里山」として整備しています。そんな中で、今回は冬季にしかできない維持作業の一つを紹介します。

写真は、山から大量の土砂が流入して池が浅くなってしまったので、重機で洲出しを行っているところです。工事はすでに終わっており、カワセミをはじめとする様々な生きものが来てくれる池に復活させました。

西尾いきものふれあいの里

◆ところ 〒445-0031 愛知県西尾市家武町小草3番地 Tel・Fax 0563-52-0266

◆休日 毎週月曜日・祝日の翌日・年末年始 [12/28~1/4] ◆発行 西尾市環境部環境保全課